

農推 第1149-5号  
令和元年8月19日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

## 病害虫発生・防除情報メールサービス（8月）

大阪府内の8月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。  
高温時の薬剤散布は薬害を起こしやすいので、散布は早朝など涼しい時間帯に行ってください。  
6月から8月は農薬危害防止運動月間です。農薬の安全かつ適正な使用を徹底し、農薬の使用に伴う事故・被害を防止しましょう。

夏休みは、ほ場周辺で遊ぶ子供も増えますので、農薬散布時は、いつも以上に気をつけましょう。  
暑い日が続く時期です。作業時に熱中症にならないよう十分ご注意ください。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

- ◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>
- ◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>
- ◎「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」 <http://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/jigyotoppage/atsusataisaku.html>

▲病害虫防除グループ  
ホームページ

▲防除指針



▲大阪府暑さ対策情報ポータルサイト

**※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。**

## 目次

1 水稲	P. 1～3
2 果樹(ぶどう、もも、いちじく、温州みかん、果樹類全般、バラ科果樹)	P. 4～8
3 野菜(なす、トマト・ミニトマト、きゅうり、あぶらな科野菜)	P. 9～12
4 野菜類・花き類	P. 12～13
5 きく	P. 14

## 水稻

### 8月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻			いもち病			
					紋枯病	
				内えい褐変病		
				セジロウンカ		
				トビイロウンカ		
				斑点米カメムシ類		
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ) 発生に注意						

### いもち病



※葉いもち

#### 特徴

- ◆多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ブラシンフロアブルなどを散布する。

### 紋枯病



#### 特徴

- ◆高温多湿時に多発する。
- ◆窒素過多、密植、分けつ多で発病が助長される。

#### 防除のポイント

- ◆過繁茂にならないようにする。
- ◆穂ばらみ期から出穂期にかけてリンバー粒剤を散布する。
- ◆発生を認めたらバリダシン液剤5などを散布する。

## 内えい褐変病



## 特徴

- ◆出穂期が多雨であれば発生しやすい。

## 防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に、ブラシフロアブルなどを散布する。

## セジロウнка



幼虫※

## 特徴

- ◆気象条件により、風によって海外から多数飛来し、急激に密度が高まる恐れがあるので、こまめに発生動向を注意する。

## 防除のポイント

- ◆薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ◆トレボン粒剤、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、アプロード水和剤（幼虫のみ）などを散布する。

## トビイロウнка



成虫

## 特徴

- ◆気象条件により、風によって海外から多数飛来し、急激に密度が高まる恐れがあるので、こまめに発生動向を注意する。

## 防除のポイント

- ◆薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ◆トレボン粒剤、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、アプロード水和剤（幼虫のみ）などを散布する。

## 斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ

## 特徴

- ◆ 畦畔のイネ科雑草などから飛来する。

## 防除のポイント

- ◆ 出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、実施しない。
- ◆ トレボン乳剤などを散布する。

## スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



## 防除のポイント

- ◆ 田植え後約20日経過後は、新たな食害被害は出にくい  
が、貝の密度を低くするためにピンク色の卵塊を発見した場合は水中に掻き落とす。

詳しい生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」を参照してください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/color.html>



## 果樹

### 8月前半の病害虫発生状況

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			晩腐病		
			褐斑病		
			べと病		
			ブドウトラカミキリ		
もも				せん孔細菌病	
いちじく			疫病		
			ハダニ類		
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			ミカンサビダニ		
果樹類全般			果樹カメムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ 発生に注意				

## ぶどう

### 晩腐病



被害果実※

#### 特徴

- ◆糖度が高くなった収穫間際の果実で発生する。
- ◆新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発する。特に露地デラウェアで発病が多い。

#### 防除のポイント

- ◆発生が多かった園では、収穫後にICボルドー66Dなどを散布する。

### 褐斑病



#### 特徴

- ◆米国系品種に弱い品種が多く、デラウェア、キャンベルアーリーに発生が多い。

#### 防除のポイント

- ◆枯枝や落葉、被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。

### べと病



#### 特徴

- ◆雨が多いと発生しやすく、雨が続くとまん延する。

#### 防除のポイント

- ◆発病した葉、果房などは除去し、園外に持ち出すなどして処分する。
- ◆収穫後にICボルドー66D、ICボルドー48Qなどを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## ブドウトラカミキリ



成虫※

## 特徴

- ◆幼虫が枝の内部に食い入り、被害を受けた部分は黒くなる。虫のいる枝の先の新梢はしおれて枯れる。
- ◆成虫発生時期は8月中旬～10月上旬、幼虫が枝内に食い入るのは10月上中旬。

## 防除のポイント

- ◆被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆収穫後の成虫発生時期に、**スミチオン乳剤**、**モスピラン顆粒水溶剤**（収穫後秋期）などを散布する。

## もも

## せん孔細菌病



発病枝（夏型枝病斑）

## 特徴

- ◆落葉痕部や枝の組織内で越冬する。

## 防除のポイント

- ◆薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。
- ◆被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆9月上旬～10月上旬頃に**ICボルドー412**などを2週間間隔で計3回散布する。

## いちじく

## 疫病



疫病※

## 特徴

- ◆雨が続くと発生しやすい。

## 防除のポイント

- ◆雨水の跳ね上がりなどで伝染するので、敷わらやポリマルチ等により雨滴のはね上がりを防ぐ。
- ◆傘かけ資材を設置する。
- ◆**ランマンフロアブル**、**レーバスフロアブル**、**アミスター10フロアブル**などを散布する。

## ハダニ類



被害葉※



被害果※

## 特徴

- ◆果実や葉に寄生、吸汁して変色させる。

## 防除のポイント

- ◆ダニコングフロアブル、パロックフロアブル、マイトコーネフロアブルなどを散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

## 温州みかん

## 黒点病



## 特徴

- ◆降雨が多くなると発生が増加する。

## 防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。

※かんきつ（みかんを除く）ではジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤とも使用時期が収穫90日前までなので注意する。

## ミカンハダニ



被害葉 ※

## 特徴

- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多く発生する

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ダニコングフロアブル、コロマイト水和剤、マイトコーネフロアブル、ダニエモンフロアブルなどを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

## ミカンサビダニ



果実の被害※

## 防除のポイント

- ◆発生が多い園ではハダニ類防除の際に、ミカンサビダニへ登録のある農薬を使用する。
- ◆コロマイト水和剤、ダニエモンフロアブル、サンマイト水和剤などを散布する。

## 果樹類全般

## 果樹カメムシ類



クサギカメムシ

## 特徴

- ◆クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシなどが加害する。

## 防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、アディオソール乳剤（かんきつ、もも、かきなど）、スタークル（アルパリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）などを散布する。

- ※ 作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

一部地域で発生が多くなっているため、それぞれのほ場での発生動向には注意する。

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

## クビアカツヤカミキリ

成虫の発生時期は過ぎましたが、フラスの排出は続いています。  
**確実に防除するためには被害の早期発見が重要です！被害状況を確認しましょう！！**



## 特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫は中華麺状フラスを出す。この時期の防除が効果的。



## 防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで撲殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

**5月7日付で防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒！！」を発表しました。**  
**詳細はホームページを参照して下さい。** <http://www.jpnn.ne.jp/osaka/>



## 野菜

### 8月前半の病害虫発生状況

品目	程度	発生状況				
		少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			うどんこ病			
				アザミウマ類		
トマト・ミニトマト (施設栽培)				コナジラミ類		
きゅうり (施設抑制栽培)			褐斑病			
			ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)			
			ミナミキイロ アザミウマ			
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)				コナガ		
				ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)		
				根こぶ病		

## なす

### うどんこ病



#### 特徴

- ◆日照不足、乾燥条件下で多発する。

#### 防除のポイント

- ◆発生前に、ベルコート水和剤、フルピカフロアブルを、発生を認めたら、パンチョT F顆粒水和剤やアフエットフロアブルなどを散布する。

### アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ）



ミナミキイロアザミウマ※

#### 特徴

- ◆高温少雨で増えやすい。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル、プレオフロアブル、ディアナSCを散布する。

#### メモ

- ◆ソルゴー囲い込み栽培の場合は、天敵による防除効果が高めるため、天敵に影響の少ない剤（プレオフロアブル等）を使用する。

## トマト・ミニトマト(施設栽培)

## コナジラミ類



## 特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

## 防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆ベストガード水溶剤、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤などを散布する。

## きゅうり(施設抑制栽培)

## 褐斑病



褐斑病

## 特徴

- ◆窒素過多は発生を助長する。
- ◆高温多湿下（25度以上）で発生しやすく、施設栽培で発生すると被害が大きい。
- ◆台風後の施設栽培で発生が多い。

## 防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル、ゲッター水和剤などを散布する。

## ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)



幼虫\*

## 特徴

- ◆施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を寒冷紗（2mm目合）等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

## 防除のポイント

- ◆生長点および脇芽の先端を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期にゼンターリ顆粒水和剤、アフーム乳剤などを散布して防除する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## きゅうり(施設抑制栽培)

## ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ※

## 特徴

- ◆高温少雨で増えやすい。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル、プレオフロアブル、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。

## あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

## コナガ

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること



成虫※



幼虫※

## 特徴

- ◆主にアブラナ科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

## 防除のポイント

- ◆定植前かん注処理あるいは定植時粒剤施用と、本ぽでは異なる系統の薬剤を使用し、同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

## ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)



幼虫\*

## 特徴

- ◆幼虫が芯葉を食害するため、株が芯止まりになる。
- ◆8月に発生量が急増することがある。

## 防除のポイント

- ◆被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆セル成型育苗トレイにプレバソフフロアブル5（キャベツ、はくさい）などをかん注するか、プリンス粒剤（キャベツ、ブロッコリー）などを施用する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

## 根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良\*

## 防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすい。石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーでは定植前に、**ネビリュウ**や**オラクル粉剤**を土壌混和する。
- ◆土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場は避ける。

## 野菜類・花き類全般

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

## 8月前半の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類 (露地)			オオタバコガ		
			ハスモンヨトウ		
				シロイチモジヨトウ	

## オオタバコガ



なすの花を加害する幼虫

## 特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

## 防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- ◆発生を認めたら、**プレオフロアブル**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、**アニキ乳剤**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。

## 野菜類・花き類全般

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

## ハスモンヨトウ



## 特徴

- ◆ 8月以降多く発生する。さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

## 防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アディオン乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（さといも、ずいき、オクラ、花き類など）、プレバソフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については

「ヨトウムシ類の見分け方」を参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto.lpdf>

## シロイチモジヨトウ



たまねぎを加害する幼虫

## 特徴

- ◆ ねぎ・たまねぎに発生することが多いが、近年あぶらな科野菜での被害が目立っている。
- ◆ 府内各地のフェロモントラップにおける誘殺虫数が、引き続き平年値を上回っている。

## 防除のポイント

- ◆ ほ場をこまめに見回り、卵塊や分散前の幼虫は、見つけ次第捕殺する。
- ◆ 分散後は若齢幼虫のうちに薬剤で防除する。老齢幼虫になると薬剤の効果が大幅に落ちる。
- ◆ 同一薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。
- ◆ 発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎなど）、アフーム乳剤（ねぎ、しゅんぎく、花き類など）、プレオフロアブル（ねぎなど）などを散布する。

詳しくは6月10日発表の防除情報  
「シロイチモジヨトウに注意！」を参照<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0106shiroiti.pdf>

# きく

## 8月前半の病害虫発生状況

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				白さび病	
		アザミウマ類			黒斑病・褐斑病

### 白さび病



#### 特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

#### 防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ジマンダイセンフロアブルなどを散布し、予防に努める。
- ◆発生を認めたらストロビーフロアブル、トリフミン乳剤を散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。

他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

### 黒斑病、褐斑病



黒斑病\*

#### 特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

#### 防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。

他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

### アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ※

#### 特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

#### 防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。

(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)